

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

大和高原の一郭、奈良市上深川町（旧都祁村）には、「題目立」という語り物芸が伝承されている。室町時代末期まで遡る。

10月12日、氏神八柱神社の宵宮の日、素襪に立鳥帽子の扮装の若者達が、本殿下の竹柵で囁われた簡素な舞台で、平清盛が天下を平らげる長刀を弁財天から授けられる「巖島」や、大仏殿再興で南都を訪れた源頼朝の命を三たび狙う平家の残党悪七兵衛景清を描いた「大仏供養」を、数え七歳の青年が中心となつて演じる。今はこの2曲のうちどちらか1曲が演じられるが、明治頃まで

は、奉納していると夜が明けると言われた「石橋山」という曲もあった。

この「石橋山」が11月

16日午後、京都市西京区の京都市立芸術大学講堂で復活上演されると知り、駆け付けた。

「語りの立体 そして復曲」と題して、同大学の日本伝統音楽研究センターと東洋音楽学会が公開講座と

して開催したもので、頼朝が平家打倒を旗印に挙

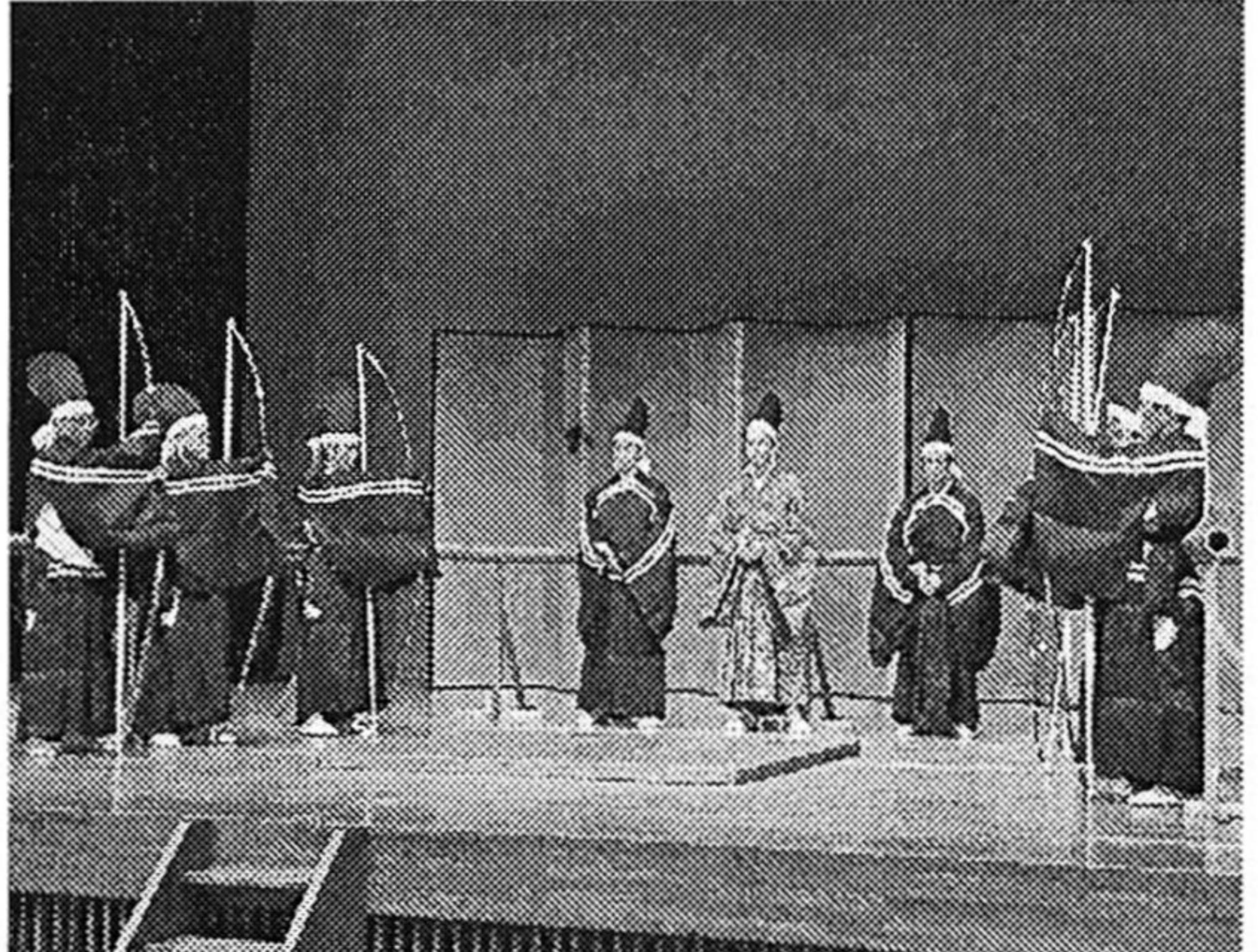
兵して大敗した相模石橋

山の合戦に関する狂言

の芸能が研究者の調査や

復曲作業を経て上演され

た。



正面中央が頼朝役、画面の左に見えないが呼び出し役の長老3人が白衣姿で控える=筆者提供

み始めた芸能経験者の「カムバック制度」と京都市立芸大の藤田隆則氏や沖本幸子氏の長年にわたる真摯な調査と地元の人々との交誼から生まれた。長い曲を今回は35分ほどに縮めたものだっただ。

ロウソクの明かりを頼りに、長老のミチビキの歌で一行が入場し、中央に頼朝役、一騎打ちをする平家方の俣野景久と源氏方の真田与一など9人が立つ。所作はなく、組み討ちの様子や台詞に「なげき」と注記された

語りがあり、最後に一人が舞台中央に出て、「よろこびの歌」に合わせて日の丸扇を掲げ、床を踏みしめてフショ舞を舞い、一同で語る「入句」で終わる。60歳から70歳代の年長者の語りは、青年の突き抜けるような若い声ではないものの、石橋山での侍の合戦の世界を、夢幻能のように淡く物悲しく再現していた。清々しい青年の題目立のすばらしさだけではなく、老練の語り手による深みと無常を漂わせる題目立という可能性がそこにあった。

今回の題目立「石橋山」の上演は、地元保存会が少子化を見込んで取り組

## 題目立の「石橋山」復活

が立つ。所作はなく、組み討ちの様子や台詞に「なげき」と注記された

語りがあり、最後に一人が舞台中央に出て、「よろこびの歌」に合わせて日の丸扇を掲げ、床を踏みしめてフショ舞を舞い、一同で語る「入句」で終わる。60歳から70歳代の年長者の語りは、青年の突き抜けるような若い声ではないものの、石橋山での侍の合戦の世界を、夢幻能のように淡く物悲しく再現していた。清々しい青年の題目立のすばらしさだけではなく、老練の語り手による深みと無常を漂わせる題目立という可能性がそこにある。

春)

（奈良民俗文化研究所代

次回は12月11日